

都市・地域計画ゼミ 57年ぶりの東京五輪開催

-contents-

2. 巻頭言
3. 学科教員・学生の活動
4. 初夏研究合宿
5. 2021年度建築学研修
6. 3年生紹介
7. 羽後本荘駅完成、東京オリンピックの昔と今
8. OB・OG紹介、日本建築学会優秀卒業論文賞、写真コンテスト佳作々品

No.09  
2021.11

# URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.



秋田県立大学 建築環境システム学科 都市・建築計画学研究グループ 都市・地域計画ゼミ

# 巻頭言

## 二人の偉人

時代が大きく揺れる時、偉人と言われる人が登場する。

### ● 渋沢栄一

渋沢は、現埼玉県深谷市の血洗島の農民でありながら尊皇攘夷として天狗党に関与し、その後に徳川慶喜との縁から1867年のパリ万博開催においてフランス随行の体験を得た。現地で近代的な資本主義経済を目のあたりにし、帰国後は第一国立銀行や王子製紙、東京瓦斯をはじめ、500以上の名だたる会社や幾つかの大学の設立運営に関わった。但し、彼は金儲けに走ったわけではない。皆から集めたお金で良い仕事をし、その利益を皆へ還元するとして「道徳経済合一説」を唱えた。

都市計画の面では、渋沢は1918年(T7)に田園都市株式会社(現東急グループ)の設立に尽力し、エベネザー・ハワード(イギリス)の提唱した「田園都市論」を参考に東京荏原郡の郊外地に新たな住宅地をつくり、市街地をつなぐ鉄道事業に取り組んだ。これが、今の高級住宅地「田園調布」である。そして、この手法が鉄道沿線住宅地開発の基礎となる。

### ● 後藤新平

後藤は、現岩手県奥州市の水沢の武家に生まれ、医師、行政官、政治家、社会啓蒙家として働いた人物である。24歳で愛知県医学校の学長兼院長となり、遊説中に襲われた板垣退助の手当をしたこともあり、その後に内務省衛生局に転出する。1895年(M28)に日清戦争終結後の5ヶ月間にわたる約13.7万人の帰還兵の検疫の陣頭指揮をとって成果を挙げ、認められて台湾総督府民生長官となる。さらに、日露戦争直後の南満州鉄道の初代総裁に就任し、帰国後は1908年(M41)に通信大臣兼鉄道院総裁となるなど、政治とのつながりも深い人物である。

彼の生涯の中で広く語り継がれていることのひとつが、「後藤の大風呂敷」と言われた東京市長就任直後の東京改造計画である。これには、国家予算約15億円の時代に8億円の事業費を見込んだ。しかし、その大風呂敷の計画が幸いし、1923年(T12)の関東大震災(マグニチュード9.0)の復興計画の礎となつて、約3,600haの土地区画整理事業、52路線の幹線道路整備、公園55か所、公立学校121校の耐火建築化など、日本の近代化を支える首都整備につながっていく。

### ● 「民」と「官」

渋沢栄一は明治維新後の日本に近代資本主義を根付かせた「民」の人であり、後藤新平は大正末期の関東大震災時に帝都復興の道筋をつけた「官」の人である。両者はそれぞれの持ち場で日本を支え、時には影響し合う関係でもあったという。

いずれにせよ、近代資本主義に牽引されて発達した日本の都市計画の中で、この2人の果たした功績は大きい。

東京都北区飛鳥山公園内にある渋沢資料館、岩手県奥州市水沢にある後藤新平記念館は、双方とも見ごたえのある施設である。

山口 邦雄 (やまぐち くにお)  
都市・建築計画学研究グループ

## 小さな旅

先日、3歳になった息子を連れて横手市浅舞蛭野から公共交通機関で本荘に帰らざるを得ないことがありました。息子は毎日車のおもちゃを夢中で遊んでいますが、まだバスに乗ったことがありません。折角だからバスで本荘に帰ろうと即時決定となりました。

近くのタクシー会社に電話してタクシーを呼びました。横手バスターミナルに行きたいと運転手さんに伝えたら、運転手さんから何分発どちら行きのバスに乗りたいのと確認され、本荘へ行きたいと言うと、運転手さんはこう言いました。「それならバスターミナルじゃなく、最寄りのバス停まで運びますよ。バスが必ず通るから」と。私はネットでバスの路線図と時刻表を調べましたが、この近くにバス停があることは載っていないはずです。どういうことかまだ理解できていないところ、バス停に着きました。半信半疑でバス停の情報を確認したら、本荘行きのバスが40分後に到着することが判明しました。

秋田に来てから、特に子供を出産してから、特にコロナ感染が拡大してから、公共交通機関を利用しなくなりました。出勤はもちろん、週末に出かける時も子供たちを車に入れて、走りやすい道を選んで目的地へ出発。車のエンジンが回り始めたら自分も集中しなければなりません。目的地への移動は効率的ですが、心のゆとりを持って沿道の集落や町の風景を見ることができません。ドライブが好きなら別の話になりますが、運転はただの移動手段だと認識している自分はすでに車に疲れています。

秋晴れの中で、すでに実っている梨の木を眺めながらバスを待っていた40分間、そして集落を通りながら本荘へ戻るバスに乗った1時間半は、昔車のない生活をしてきた光景に戻ったようで、私にとっては小さな旅でした。

私が大好きな日本人の作家さんがいます。新井一二三といい、日本人でありながら、主に中国語で執筆しています。新井氏は些細な感情を素朴な中国語で書いた文章が人の心に響く力を持っていると感じます。『午後四時のビール(午後四時的啤酒)』という本の中で、確かに遠いところに行くのは不便ですが、子供をベビーカーに乗せて近くの公園に行ってピクニックも楽しめるでしょうと車のない生活の楽しさが書かれました。そのエッセイを読んだ時は車のない生活をしてきた頃でしたが、今さらに車のない生活の貴重さを感じました。

李 雪 (り せつ)  
都市・建築計画学研究グループ



# 学科教員・学生の活動

○今回のN.L.は通算26号目です。  
表紙の写真「アオーレ長岡」（新潟県長岡市）  
撮影者：山岸 大地  
隈研吾氏による設計で、市松状に取り付けられた木製パネルが印象的です。

## フジタの旅と秋田の美の再発見

～秋田県立美術館 企画展「藤田嗣治 秋田で見た建築と風景」を通じて～

秋田県立美術館の大作「秋田の行事」をてがけた画家、藤田嗣治（フランスに帰化してからはレオナルド・フジタ）が、秋田を何度も旅していることはあまり知られていません。今回の企画展（9月に終了）は、フジタの足取りをたどる聖地巡礼の旅案内というコンセプトとし、我々は、戦前に計画され未完に終わった「幻の美術館」の展示空間部分模型を担当しました（終了後も展示）。

最初の旅は、東北を旅する途中で立ち寄った秋田市と男鹿市。その後の訪問先は、映画の撮影で仙北市角館、「秋田の行事」の制作と前後して湯沢市（両関酒造）、横手市増田（旧石田理吉家：当時酒造業を営んでいた）、そして、訪問した可能性が高い由利本荘市石脇（齋彌酒造店）があげられます。齋彌酒造店では齋藤彌太郎氏（本荘町の町長でもあった）の肖像（油絵）、自伝のための扉絵（カダーレの中央図書館に所蔵）、そして日本画を描いています。国内では数少ない、個人依頼による肖像画は過去1回しか展示されていない貴重な作品で、県外からの旅行自粛などがなければ、国内外からこの作品1点をみに多くの方が訪れたかと思うと残念でなりません。

フジタは秋田の風土を賞賛しています。フランスから帰国したフジタは、日本人が安易に西洋のモノマネをすることを、あまりよしとしていなかったと言われます。本当に大切にすべき何かを秋田の風土にみだし、集大成として「秋田の行事」が制作されたとも言えるでしょう。現在、秋田にいる方、卒業・修了後秋田を離れた方、あらためて、フジタの旅先としての秋田を再発見してみたいかでしょうか？（秋田県立美術館以外では、箱根のポーラ美術館に複数の作品があります。）（建築計画・環境心理ゼミ・込山敦司 准教授）



## 東由利・空き家活用の取り組みへの参加

由利本荘市の内陸に位置する東由利地域にて2021年8月、空き家を活用したフリースペース兼シェアハウスが誕生した。その名も『楽・ねまり』。集い・憩いの場として、会議やボードゲームなどの他テレワークなどインターネットを利用したい方にもおすすめの場所である。



この事業に学生が関わったきっかけは、石脇地区にある多機能複合施設『ここわき』の完成披露にて、東由利まちづくり協議会及びNPO法人黄桜の宿と秋田学生まちづくり団体が出会ったことだった。その後、2021年3月に内見と活用方法の意見交換を、4月に障子貼りへ参加した。今後も感染症流行に負けず、東由利でのサークル活動時の拠点として宣伝するなど、学生と地域のつながりを生み出せればと考えている。（材料学講座B4 阿部穂積）

## 西洋建築史を模型づくりでたどりましょう！

建築史を勉強するには現地に行って何百年も経っている建物を自分の体で感じる事が大事ですが、コロナ禍の影響でヨーロッパはより遠く感じるだろうと思い、大学の課外教室-創造楽習に西洋建築の模型作りを企画しました。

都市・建築史の受講生の4人が参加し、パルテノン神殿、パンテオン、ノートルダム大聖堂、ミラノ大聖堂のパズル模型を作成しました。今回は市販のパズル模型キットを使用しましたが、来年は大学の3Dプリンターやレーザーカッターでオリジナルな模型作りをしたいと思っています。（李雪 助教）



# 初夏の 研究合宿

21.05.22 ~ 05.23



朝7時、大学から出発。到着後、早速、田沢交流センターにてゼミを行った。研究合宿しおりと研究ゼミ資料(右)・田沢交流センター前での集合写真(左)



夕飯の準備をする合宿係(左)と宿泊した「たつこ荘」と(右)。たつこ荘周辺は自然で溢れており、周辺の散歩をしリフレッシュにもなった。



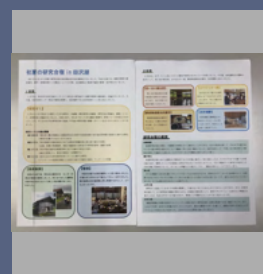
ゼミ終了後、田沢交流センター付近周辺の街歩きをした際の写真。



二日目。朝のゼミ終了後、周辺施設の見学を行った。写真は、廃校を見学施設として活用している「思い出の潟分校」で撮影したもの。



田沢湖駅の外観。ガラスと木材のモダンなデザインが特徴的。



午後3時ごろ大学到着。後日、合宿係が報告書を作成した。

## ▼ 合宿の感想

今年度は田沢湖周辺にて研究合宿を行い、建築学研修の進捗発表、ゼミの歴史についての学習、施設の見学等を行いました。建築学研修の進捗発表では、一つの区切りとしてそれまでの研究を整理し、今後やるべきことを明確にする良い機会になりました。普段とは違う環境でのゼミということもあり、準備期間も含めて良い緊張感をもって集中して取り組むことができました。

感染症対策の徹底が求められる中でしたが、こまめな消毒や換気等を心掛け無事合宿を終えることができよかったです。たつこ荘での食事の準備や、田沢湖周辺施設の見学等、合宿全体を通してゼミの親睦も深めることができ有意義な合宿になりました。(B4 山岸大地)



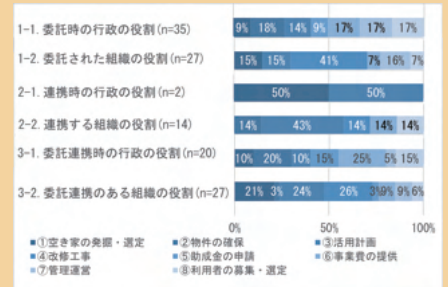




## 高橋 樹凜 行政による能動的な空き家活用事業の取り組みに関する分析 —東北6県の市町村に着目して—

本研修では、東北6県の227市町村を対象に行政が空き家を改修している能動的な空き家利活用の取り組みを調査しました。行政担当者に電話ヒアリング、メールで調査し、取り組みの目的と用途、行政と協力組織の役割とその体制を明らかにすることを目的としました。結果として、以下のことが明らかになりました。

- ・14市町村で16事業の能動的な空き家活用の取り組みが見られる。
- ・行政の能動的な空き家利活用は移住定住促進を目的としている傾向にある。
- ・協力組織とその体制から委託、連携、そのどちらもある3種類の関係があり、改修や運営管理等、行政では実施が困難な役割を協力組織が担うことで解決している。
- ・委託の関係がある取り組みでは、住民の参加が見られ、活用計画や改修の段階で参加している。



## 藤井 智也 秋田県横手市増田地区における歴史的景観形成に係る取り組みの実績 —伝統的建造物群保存事業と街なみ環境整備事業に着目して—

本研修では、横手市増田地区における伝統的建造物群保存事業（以下、伝建事業）と街なみ環境整備事業（以下、街環事業）の実績について明らかにし、整理することを目的とした。

伝建事業では、建造物に関する事業に加えて、防災事業が全体の約47%実施されていた。その中でも防火に関する事業がほとんどを占めており、火災から歴史的街並みを守る取り組みがなされていた。街環事業では修景事業が主に行われていたが、その中でも一般宅向け補助を独自に導入していた点が特徴的だった。

事業箇所をプロットした分布図を作成し、事業箇所が表通り沿いに集中していることがわかった。また、事業の重複した地区において、両事業を利用した箇所は6か所あった。今後はこの箇所に着目し、事業を併用することによる有用性を考察していく。



## 山岸 大地 第6次・第7次秋田市総合都市計画策定会議における論点の分析— 各会議間の変化と各会議中の変化に着目して—

本研修は、秋田市総合都市計画策定会議の議事録をテキスト分析という手法を用いて分析することで、論点の第6次計画から第7次計画への変化を明らかにし、それに関する背景や理由を考察することを目的として行いました。

その結果、第6次では、河辺町・雄和町の秋田市への合併に伴い都市計画区域をどのように設定するかが大きな論点となっており、第7次では泉外旭川駅の設置や市卸売市場の再整備に伴う周辺地域の土地利用についてと、立地適正化計画策定による本計画での扱いについて大きな論点となっていました。これらの論点は市町村合併や新駅の設置など秋田市の社会動向に符合していることが明らかになりました。



## 吉田 乃枝 旧鉾山都市・小坂町における世代別の都市のイメージに関する研究

本研究では、地域資源を重視した価値不可を目指すまちづくりが求められているという背景をもとに、都市のイメージを現代的に再検討することを目的としています。

建築学研修では、「都市のイメージ・研究背景の整理」「小坂町の概要の把握」「分析方法の検討」「アンケート調査票の作成」の4つを行いました。都市のイメージとシビックプライドの関係を前提条件として対象地を決め、「歴史性」「生活利便性」「自然性」「発展性」の4つが想定される抽象的な都市のイメージであると仮定し、調査票の作成を行いました。これからアンケートを実施し、結果の分析を行い、ヒアリング調査をすることで、定量的・定性的に結果を確認していく予定です。



## 3年生紹介

- ①出身地  
→紹介
- ②好きな休日の過ごし方
- ③訪れたい都市・建築
- ④コメント



おがさわら りき  
小笠原 李熙



- ①岩手県軽米町  
→ 有名なマンガの聖地
- ②スポーツ鑑賞
- ③世界中の美術館
- ④計画的な行動を心がけます。

くぼき こうせい  
久保木 康生



- ①静岡県沼津市  
→気候にも恵まれている。特産品は干物。
- ②料理をし友達とリモートでお酒を飲むこと！
- ③ギリシャのアクロポリス
- ④心地良い景色や街の歴史を勉強し、自分の知識や生活が豊かになる研究をしたいです！

すずき すみれ  
鈴木 純怜



- ①秋田県横手市  
→ 冬になると街にかまくらがたくさん作られて綺麗
- ②ドライブ
- ③オーストラリア・タウンホール
- ④一生懸命頑張ります。

やまざき そうた  
山崎 颯汰



- ①岩手県雫石町  
→ 自然が豊かで季節毎の景色
- ②ドライブ
- ③フランス, パリ
- ④都市計画のゼミの一員として頑張りたいです。

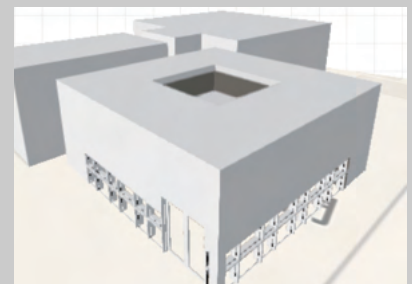
## 建築設計「ギャラリーの設計」 B3 小笠原李熙



今年度の建築設計では、込山先生と秋田公立美術大学教授の小杉栄一郎先生のご指導のもと、ギャラリーの設計に取り組みました。内容は自分で選んだアーティストのギャラリーを4つ設計、街中に分散して設置し、作品と共に街にも目を向けるように検討するものでした。

私は池田修三さんを選択しその作品のモチーフから子供に焦点を置いて設計しました。子供の目線とその高さや、外から見ても興味を持つ工夫、動線を簡単にすることや採光などを考えました。また、ギャラリーは4つあるので1つ1つのギャラリーの意味・差別化を考えることが大変でした。

今回の4つのギャラリーの設計は考慮すべき点が多く苦戦しましたが、確実に成長に繋がりました。





# 羽後本荘駅完成



2021年8月5日、羽後本荘駅の新駅舎と東西自由通路の併用が開始されました。旧駅舎は入り口が駅西側のみで、東側からのアクセスが不便でしたが、新駅舎は線路を挟んで駅の東側と西側を通路でつなぎ、自由な往来が可能になりました。通路には由利本荘市の工芸品であるごてんまりが飾られており、「ごてんまりロード」と呼ばれています。南側の大きな窓からは市街地や鳥海山も眺める事ができます。

駅前広場や駅東広場の整備については今後も継続され、駅周辺の賑わい創出が期待されます。(N.L.担当 高橋)



## 東京オリンピックの昔と今ー施設で見るとー

1964年には東京都の25の会場、2021年には東京都以外に北海道や福島県も含めた42会場で東京オリンピックが開催された。そのうち8会場が新設、10会場が仮設、24会場が既設である。今回は、2大会とも競技会場となった既存施設に着目し、東京オリンピックの今と昔を比較した。

### ①東京体育館

1954年に建設、2018年から改修工事が行われた。1964年にはメインアリーナで体操競技、屋上プールで水球が実施された。今年は、混合ダブルスの新種目が初めて採用された卓球の会場となった。

1964年



写真引用：<https://www.tef.or.jp/tmg/history.jsp>  
[https://www.jiji.com/jc/tokyo2020?s=special&i=venue\\_tokyo-metropolitan-gymnasium](https://www.jiji.com/jc/tokyo2020?s=special&i=venue_tokyo-metropolitan-gymnasium)

2021年



### オリンピック開催の背景にある社会状況と疑問

#### ①五輪のコロナへの影響は？

新規感染者数は、オリンピック開会式4,082人、パラリンピック閉会式12,907人と、約1ヶ月で明らかに増加している。大会関係者内の感染は最小限に抑えられ、表向きには新型コロナ対策はうまくいったとされている。間接的な感染は定量化しにくく、実際どれだけ五輪の影響があったかは判断できないが、この数字を見ると無関係とは言えないだろう。

#### ②新設した施設の今後の運営は？

建設費1569億円が投じられた新国立競技場は、現在も引き取り手がいない。運営管理費が負担になるため、民営化も難しいものとなっている。また、事前に後利用を明確にしなかったことも問題点とされている。次回開催のパリ五輪が謳うのは、「コンパクト五輪」である。パリ中心部周辺で競技が行われ、95%が既存の施設を利用するという。1964年大会における選手村は、再整備を経て現在の代々木公園となっている。今大会で新設された施設も、再整備・運営体制を整えなくては負の遺産となるだろう。

#### 施設マップ

東京の会場は1964年のレガシーを引き継いだ都心に近い「ヘリテッジゾーン」と都市の未来を象徴する湾岸エリアの「東京ベイゾーン」の2つから構成され、無限大の記号をイメージさせている。



### ②国立代々木競技場

1964年東京五輪開催に合わせて丹下健三が設計。水泳、バスケットボールが行われた。2018年から耐震とバリアフリーの改修工事がされ、今年はハンドボールやバドミントン、ウィルチェアーラグビーが行われた。



写真引用：[https://www.joc.or.jp/past\\_games/tokyo1964/memorialplace/4.html](https://www.joc.or.jp/past_games/tokyo1964/memorialplace/4.html)  
<https://www.jpnsport.go.jp/yoyogi/sisetu/tabid/70/Default.aspx>



### ③日本武道館

1964年東京五輪開催に合わせて建設。柔道をオリンピック競技として初めて実施したのが1964年東京五輪で、その会場として使用された。2021年では空手が五輪競技として初めて採用され、その会場となった。



写真引用：[https://www.joc.or.jp/past\\_games/tokyo1964/memorialplace/4.html](https://www.joc.or.jp/past_games/tokyo1964/memorialplace/4.html)  
<https://www.jpnsport.go.jp/yoyogi/sisetu/tabid/70/Default.aspx>



### ④馬事公苑

1940年日本初の総合的な馬事施設として開苑した。2017年からメインアリーナの改修工事、9,300人収容の仮設の観客席を建設した。またその解体工事のため2023年秋まで休苑している。



写真引用：[https://www.joc.or.jp/past\\_games/tokyo1964/memorialplace/14.html](https://www.joc.or.jp/past_games/tokyo1964/memorialplace/14.html)  
<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/venues/equestrian-park>







# OB 紹介



皆様、いかがお過ごしでしょうか。2018年度修了(15期生)の小島寛之です。今号のOB紹介で当方を紹介頂けるとのこと大変嬉しく思います。

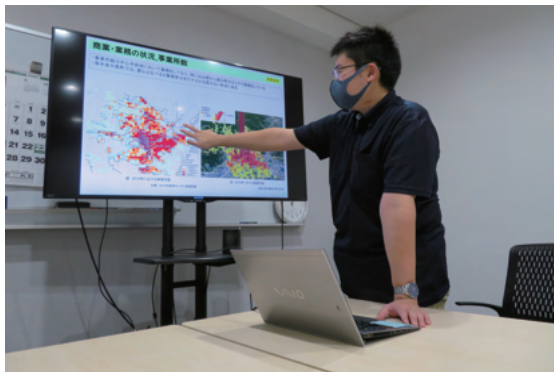
私は現在、一般財団法人計量計画研究所に所属しております。和名ではどのような組織であるかすぐには想像できないかもしれません。英語名はThe Institute of Behavioral Sciences

(略してIBS)でして、高度成長期をむかえた我が国において、公共投資の最適配分をいかにして行うかに苦慮していた時代に英語名にあるように科学的計画を担う研究機関として発足して以来、都市交通計画、都市計画、経済等の政策分野において、国・地方公共団体などからのご依頼に受ける形で、幅広い分野の社会課題解決に取り組んでいます。業界でいうところのシンクタンクや建設コンサルタントになります。また、一般財団法人とあるように純粋な民間企業と異なり、公益活動としてパーソントリップ調査などをテーマにした講習会(都市計画CPD対象)、研究者を公募し、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公刊する(フェローシップ)事業などを行っております。

大学のころと同じく“都市地域”と名の付く部署で活動しており、学生当時の研究領域であった立地適正化計画やまちづくり方針策定をはじめ、住宅供給公社やURなどの団地再生、MaaS実証実験、都市計画道路網検討など国から地方自治体まで幅広く携わり都市計画・交通計画の教養を身に着けている最中です。入所後は学会での投稿・発表があまりできておりませんが各学会の大会やシンポジウムの参加を通して学術とは接点を持っています(近年はオンラインかつ無料のものが多いためゼミの皆さんもお気軽に参加してみてください!)

コロナ禍ではありますが、長期休暇の際にはゼミ生の皆さんにはぜひ各所のまちを訪れてまちの魅力に触れることをおすすめします。学生の頃の旅(当方の場合は18きっぷをフル活用した安旅でした)が仕事に活かされることも案外あります。

一般財団法人 計量計画研究所研究本部都市地域・環境部門  
研究員 小島寛之 (2018年度修了、15期生)



※宇都宮市 LRT 建設中の様子

## 写真コンテスト 佳作作品



「大潟村干拓博物館」  
秋田県大潟村 李雪

岡田新一設計事務所の作品です。  
建物の裏側から見ても魅力的です!



「坂本東嶽邸」

秋田県美郷町 藤井智也

明治時代の政治家・漢詩人である  
坂本理一郎の旧宅で指定文化財。



「弘前れんが倉庫美術館」

青森県弘前市 吉田乃枝

明治・大正期に建設された吉野町  
煉瓦倉庫を改修。昨年オープンした。



「新潟市民芸術文化会館  
りゅーとぴあ」

新潟県新潟市 山崎颯太

新潟市を訪れた時に建築ツアーの一環として見学した建物です。

## 日本建築学会優秀卒業論文賞

2020年度卒業生の関根萌さんが、日本建築学会優秀卒業論文賞を受賞しました!

題目:「重要伝統的建造物群保存地区内の住民等組織による空き家利活用の取り組みに関する研究—栃木市嘉右衛門町地区を対象にして—

この度は優秀卒業論文賞を頂き、大変嬉しく光栄です。日頃から熱心にご指導頂いた山口先生や李先生及び、国土館大学の横内先生をはじめとする調査にご丁寧にご協力頂いた方々あってのことです。本当にありがとうございました。千葉大学大学院 関根萌(19期生)



### ～編集後記～

今号も多くの方々のご協力により、無事に通算26号を発行することができました。感謝申し上げます。今号から3年生が新しくN.L.編集部に加わり、紙面のデザインを担当しました。今後も、都市・地域計画ゼミの活動を発信していきますので、N.L.ご愛読の程、よろしくお願い致します。<2021.11.>

N.L.編集部:高橋樹凜 吉田乃枝 久保木康生 鈴木純伶 山口邦雄

URPS 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎: 0184-27-2053 e-mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄